

# 土曜 ライフ・楽しむ

## さん付け?呼び捨て? 関係性が決め手



生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利



三者三様、様々な受け止め方があり、面白いですね。呼び捨てにするか「さん」をつけるかは、場面や関係性が決め手です。

同窓のM君はかつては競輪選手、レース中の事故で大ケガを負いその道を断念しました。ダンプの運転手などを経て、大学に行こうと一念発起し、同期生たちより10歳ほど年長で大学生活を始めました。周りの学生は年の差もあり近づく者も少なく、呼びかけも「Mさん」と遠慮深げで、壁を感じていました。



こんな状態で4年間やっていけるのだろうかと心配になったある日、一人の学生が飲み会の席で「オイM、こっちで一緒に飲まんか」と声をかけました。それを聞いて初めて「ああ、ここに居ていいんだ」と思ったと言います。彼は学生時代、強靱な体力と肺活量を誇り、水泳訓練の最中に自衛艦の下をくぐり抜け叱責を受けるなど、数多くの逸話を残した大物です。

最近、私よりかなり年下で、あえて相手を呼び捨てにする女性と遭遇しました。もちろん親しくはありません。背伸びをしているのかどうかは不明ですが、自分はある程度よりも上位にいるという優位性を自慢し、威圧的な態度をとっているようです。

それを聞いてさらに距離を置いたのは言うまでもなく、これが最近よく聞くようになった「マウントを取る」ことかと感動すら覚えました。

社内とは学生結婚で、その出会い以来ほぼ半世紀、私のことを「まなべさん」と呼びます。周りは驚きますが、いつまでも新鮮でいいですよ。昔私の実家で一族が集まった時、彼女が少し離れたところから私に「まなべさん」と呼びかけました。そこにいた全員が振り返りました。



ある友人の奥さんはチリの女性です。彼女が言うには、他の奥さんたちはお互いに、「○○子さん」「△△美さん」と呼ぶのに、私を呼ぶときは「クラウディア」と呼び捨てにする。なぜか不思議、また気持ちの良いことじゃないそうです。

そんな場面、確かにありそうですね。「○○子」と呼び捨てると角が立ちそうで控えますが、外国の方の場合、カタカナだし、「さん」までつけると長すぎる気もするので